

2018年(平成30年)11月21日(水曜日)

三島市 補助金文書偽造

自由に使える「市の財布」

交付先の協議会 議会チェック受けず

三島市が文書を偽造し補助金を交付していた三島市地域ブランド推進協議会は、豊岡武士市長の肝いり事業を実施するための任意団体。事務局を市に置き、「実質的に市の組織」にもかかわらず、市の補助金を主な財源としているため、「協議会を通せば市民の税金を自由に引き出せる」との批判の声も上がる。

(佐久間博康)

市長「監査受け不正ない」

協議会は、市が地元農業産物のPRやブランド化を目的に二〇一五年二月に設立。JAや生産者、商工業者、市職員らで構成する。三島甘藷の商品開発と

食のイベント「アモーレミしま」は、協議会の一六年度の主要事業で、市長の意を受けて推進していた。関係者によると、協議会は市の補助金が主な原資だが、事務局の市職員が書類を整えて市に申請するため「お手盛り」も可能。市が自由に使える財布のような役割を果たしているという。任意団体のため、議会からチェックを受けることもなく、予算の執行状況も公開されていない。

三島市の補助金文書偽造、答弁訂正の流れ

2016年10月	市が補助金200万円を市地域ブランド推進協議会に交付
2017年2月11、12日	アモーレミしま開催
3月14日	2月市議会で産業振興部長が「補助金は三島甘藷の商品開発に交付した」と答弁
4月	2016年10月の文書を偽造し、補助金の目的を「箱根西麓三島野菜や市内農産物のPRやイベント企画」と変更
4月18日	協議会委員が立て替えたアモーレミしまの経費78万円を協賛金として処理する協議会の決算を承認。協議会委員に「返金できない」と回答
5月末	協議会と協議会幹部が立て替えた委員に計78万円を返金
6月21日	6月市議会で産業文化部長が「補助金はアモーレミしまに支出した」と答弁を訂正

不正があった一六年度当時の状況について関係者は「一人の市職員が実権を握